

令和4年度国立国会図書館の書誌データに関するアンケート結果の概要

1 アンケートの概要

目的：国立国会図書館の書誌データについて、国内の図書館・関係機関における利活用状況及び改善要望を把握し、利活用促進の検討に資するため。

対象：国内の図書館・関係機関

期間：令和4年9月1日（木）から11月30日（水）まで

有効回答数：165件

2 回答内容の分析

集計結果は、別紙「令和4年度国立国会図書館の書誌データに関するアンケート（図書館・関係機関向け）の館種別クロス集計結果」のとおり。「(Q2-1)」等は、別紙の項番を指す。

○回答者の属性

- ・大学図書館、学校図書館・専門図書館、公共図書館の順に多かった。(Q6-1)

○利用状況

【書誌データ】

- ・館種別にみると、利用していると回答した機関数、割合とも、学校図書館、専門図書館、大学図書館の順に多かった。公共図書館では、「利用していない」が約半数を占めた。(Q2-1)
- ・利用目的は、「目録作成・蔵書管理」、「レファレンス」の順に多かった。(Q2-4)
- ・令和2年12月のNDL-Bib（国立国会図書館書誌提供サービス）終了による利用頻度の顕著な変化は見られず、また、サービス終了自体を知らなかったという回答が全体の約4分の1あった。(Q2-3) 令和2年度の結果と比較すると、NDL-Bib終了後に、国立国会図書館サーチからの利用が増えたことがわかる。(Q2-5 参考)
- ・利用する理由は、「データが無償で利用できるから」が最も多く、次いで、「書誌情報が充実しているから」、「品質を保証された信頼性のあるデータだから」、「データ件数が多いから」が多かった。「書誌データを早く入手できるから」もこれらに次いで多かった。(Q2-9)
- ・利用していない理由は、「知らなかったから」が最多であり、3番目に多かった「利用方法がわからなかったから」と合わせて全回答の半数以上を占め、情報発信に課題があることが分かった。(Q2-11)

【雑誌記事索引データ】

- ・館種別にみると、専門図書館及び大学図書館の利用頻度が比較的高かった。(Q3-1)
- ・利用目的は、「レファレンス」、「国立国会図書館所蔵資料の貸出・複写申込み」の順に多かった。(Q3-2)

○情報発信・広報

- ・当館書誌データ提供に関する情報は、館ホームページから得ているという回答が半数以上を占めるが、情報自体を見たことがないという回答も相当数あった。(Q4-1)

○当館への期待、要望

- ・「無償提供の継続」、「データの信頼性・品質の維持」、「詳細な書誌情報の提供」の順に多かった。利用する理由とも共通しており、これらの点に多くの評価や期待、要望が寄せられていることが分かった。(Q5-1)